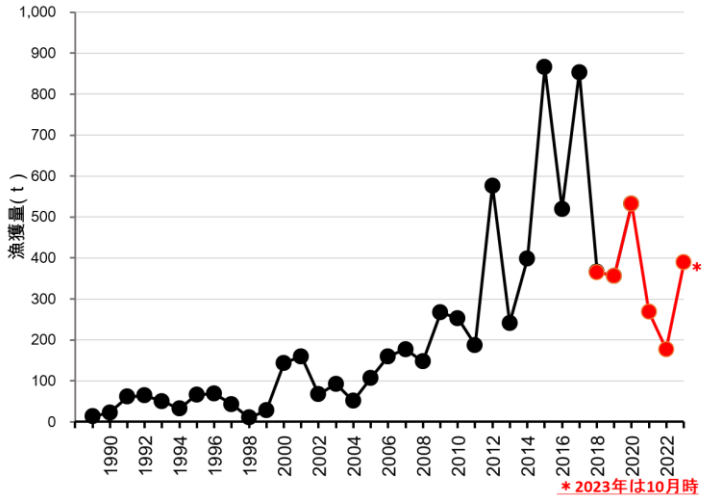
ブリ

令和5年12月

資源の動向 「高位・減少」



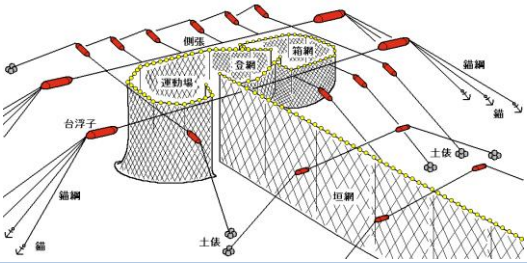
ブリ類漁獲量の経年変化
（西湘　定置網：1989～2023）

相模湾西湘地域のブリ漁獲量は、2011年を境に増加し、2015年をピークに増減を繰り返している。2021、2022年と減少したが、2023年は春季の来遊が多く、10月時点で400トン近い漁獲量である。ブリ資源量は全国的に高い水準にあり、相模湾においても同様に「高位」である。しかしながら、直近5年（2018～2022年）の動向は「減少」と評価された。

対象漁業

〇定置網

定置網の構造と各部の名称



生物学的特性

〇分布：日本の沿岸全域に分布する回遊魚

〇移動：ブリの稚魚(モジャコ)は流れ藻によって輸送され、2歳未満の未成魚は大きな回遊をせずに地先付近に滞在する。2歳以上の多くが回遊を行い、太平洋側ではいくつかの小規模な回遊群が確認されている。

〇成長・産卵：ブリは、成長段階ごとにワカシ→イナダ→ワラサ→ブリと呼び名が変わる出世魚として知られる。1歳で尾叉長40cm、2歳で60cm前後に成長し、生殖腺が急速に発達して産卵可能となる。太平洋側での産卵は1月から始まり5月ころまでと考えられている。